

除草剤使用の注意点と 除草効果の仕組み

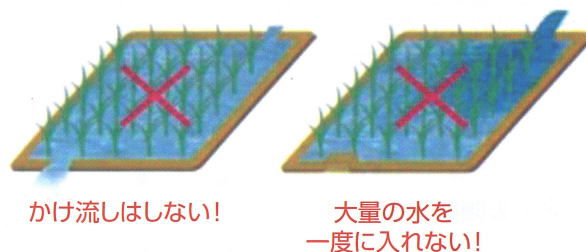
除草剤の使用は、ラベルの内容を注意事項までしっかりと確認しましょう。除草剤の有効成分は土壌表面に処理層を作ることによって効果を発揮します。処理層を壊さないために使用時や使用後の水管理が重要となります。

- 水稲用除草剤に貼付されているラベルには使用基準や使用上の注意事項が記載されていますので、その内容を遵守して使用する必要があります。
- 使用時の水深は5cm以上。特に、ジャンボ剤・フロアブル剤は必ず5～6cmの湛水状態を保って下さい。また、藻・浮草が発生していると、拡散が不十分となり効果が劣ることがありますので、使用時期の範囲内で早めに散布してください。



処理層をしっかり作るための水管理（注意点）

- ① 除草剤がよく拡散するように、十分な湛水状態にしてください。
- ② 除草剤散布後3～4日間は通常の湛水状態を保ってください。
- ③ 散布後7日間は落水・かけ流しをしないでください。散布後の補植はしないでください（除草剤散布前に済ませる）。
- ④ 水持ちが悪いほ場でやむを得ず入水するような場合はなるべく静かに入水してください。



散布後、処理層が形成・安定するまで約3日間かかります。この間の急激な入水・落水は効果の低下に直結します。

3日間は湛水を保つことを心がけ、7日間の止水管理を守りましょう。

pick up
営農指導
活動

3/21 水稲省力化技術研究会

JAレーク伊吹青年部は、JA北びわこ青壮年部等と共に水稲省力化技術研究会を始めます。農業技術の普及を目指し、農業者や関係機関と連携し調査研究を進めるものです。

背景に、農地集積の進展があります。作付規模が拡大するに伴い、適期作付や省力化・生産コスト低減を実現すべく農業技術の導入が必要になったためです。年度初の今回は、『乾田直播』作業の研修や交流会を開催しました。

この研修はまとめ動画にして公式LINEで配信しました。このまとめ動画をはじめ、農業に関するお役立ち情報を公式LINEにて配信中です。ぜひ右の二次元コードよりご登録頂き、今後の投稿を楽しみにお待ちください。



農業のお役立ち情報を配信中!

